2021年度 第1回JSR編集委員会　議事録

日時：2021年2月24日（水）20時
場所：オンライン（Zoom）会議
出席予定：長谷川 和宏（担当理事）、川口 善治（アドバイザー）、大島 寧（委員長）赤澤 努、明田 浩司、今城 靖明、鈴木 亨暢、髙野 裕一、竹内 大作、高畑 雅彦、二階堂 琢也、長谷 斉、福岡 宗良

陪席：事務局／鈴木　杏林舎／岡田、靏間、明松（記）

報告事項
1　前回JSR編集員会議事録について
2　JSR投稿状況
一同査収した

3　バナー広告状況
川口アドバイザーより、以前は委員の先生方に企業への声掛けをして頂いていたが今後はどうするか確認をしたいとの意見が出された。
長谷川理事より、脊椎脊髄病学会のニュースレターに広告を出してくれる企業は多く、以前JSRに広告を出していた企業からも申し込みがあるためJSRのサイト内のバナー広告がなくても学会収入としては問題がなく、以前の様な声掛けは今後必要がないと報告された。

4　Awardee（優秀論文賞）について
2021年1月のJSSR理事会にて、「今後の優秀論文は原著論文に限る」と決定した事が長谷川理事より報告された。3月発送の抄録集の同封物にて会員に周知する事になった。

5　来年度予算について
2020年JSR費用に基づき2021年度も同額程度の予算計上をしている事が長谷川理事より報告された。

6　JSR 抄録集アーカイブ会員認証について
理事会の審議により抄録集の閲覧は会員のみに限定する事が決定した旨が長谷川理事より報告された。

7　日本側弯症学会委員交代について
編集委員長が赤澤努委員から出村諭先生（金沢大学）に交代となったことが報告された。4 月以降は出村先生が JSR 編集委員として参加される。

審議事項

1. 関連学会負担金について

- 長谷川理事：負担金について関連 7 学会より現状やご意見を伺いたい。
- 赤澤委員：側彎症学会では分担金について特に意見はなく予算も余裕があるので異論が出たことはない。
- 今城委員：金額について現状で財政上の問題はない。
- 髙野委員：過去に負担金が高いという意見はあった。
- 竹内委員：問題はないかと思われる。
- 二階堂委員：理事会、評議員会含めて金額についての意見は出た事がなく財政的にも問題がないと思われる。
- 長谷委員：発足当時から負担金は高いのではないかと意見があった。JSR のオンライン化により費用が抑えられるメリットがあるとの事で動いていたので経費削減されていたのであれば、分担金もそれに合わせ減額して頂きたい。
- 福岡委員：2 月 3 日に開催された幹事会でも話題になった。東海は紙ベースの雑誌が別にありそちらを維持する為、JSR の分担金が負担となる場合は参加をやめる意見もある。

<u>→委員の意見を踏まえ各関連学会の負担金から 25 万円の減額で了承を得た。最終的には次回の理事会で結審する予定。</u>

2　二重投稿に関する審議

高畑委員よりダブルパブリケーションの疑いのある論文（査読中）があると査読者から指摘を受けたとの報告があった。

■概要

・骨粗鬆症性椎体骨折後の QOL 低下の危険因子の解析（論文 ID：JSR-2021-0002-IOA, 責任著者：猪瀬弘之先生）

・Inose H, et al. Predictors for quality of life improvement after acute osteoporotic vertebral fracture: results of post hoc analysis of a prospective randomized study. Qual Life Res. 2020. doi: 10.1007/s11136-020-02629-9.

事前に著者より以下の回答あり。

****

ご連絡いただいた件ですが、Qual Life Res のほうは解析に線形回帰を用いておりまして、Journal of spine research に投稿したものは EQ-5D をカットオフ値を用いて二値化し、ロジスティック回帰分析を行っていますので、解析手法が全く異なると思っております。したがって、最終的な QOL 低下に結びつく危険因子も、 Journal of spine research と Qual Life Res とは異なるので、結果や考察も内容が違うとは思います。

以上のような事柄から、私としては二重投稿ではないと考えていますが、最終的な判断は編集部に一任いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

****

- 高畑委員：著者に確認したところ解析の手法が違うとの事。確かに違いはあるが元のデータはほぼ同じ内容であったので二重投稿と取られ兼ねない内容になっている。
- 大島委員長：図表数も違うが恐らく使っているサンプルは一緒で、総説ではないので問題がある。
- 杏林舎 岡田：今回の論文は salami-slicing に引っかかる可能性がある。ただし後発論文は先発論文と比較して 50%以上内容が増強されているなど条件を満たす場合は分割を許される場合もある。
- 長谷川理事：ざっと論文を読んだが salami-slicing と判断される論文だと考えるのでこのままではパブリケーションしない方がよい。もし JSR に掲載を望む場合は総説として書き換えて頂く必要がある。
- 大島委員長：恐らく著者は二次出版等認識ではないのであろうが、客観的に見るとダブルパブリケーションと言える状態なのでそこをどう判断するか。

杏林舎 岡田：JSR に投稿する際に提出している著作権に関する同意書には”今まで他の雑誌に掲載または投稿中ではない。すなわちダブルパブリケーションでないことを誓約します”と記載があり著者全員の先生がサインをされている。
長谷川理事：それであればやはり問題がある。委員会としては現状の形では採用する事は出来ない。
竹内委員：参考文献にも該当の論文が上がっていないがどうやって気が付いたのか。
高畑委員：自分自身でも気が付いたが査読者の先生からもご指摘を頂いた。
杏林舎 岡田：この論文は先行論文を一切引用していないのも大きな問題であり、同じデータを使ったのであれば先行の論文と何が違うか明確にしなければならないのでこのままの状態では出版はしない方がよい。
<u>→先行論文を必ず引用し総説として書き直してもらえれば再度査読を認める事とした。</u>

その他
査読における double blind について

- 大島委員長：現在は JSR ブラインド化されていないが長谷川理事よりブラインド化した方がよいと提案があった。
- 長谷川理事：昨今の査読はダブルブラインドが主流である。全関連学会含めダブルブラインド化してほしい。
- 杏林舎 明松：ブラインド化する場合投稿規定の修正も必要である。
- 長谷川理事：一度投稿規定の修正案を編集事務局から提出して頂き、全委員に確認後、投稿規定の周知をしてはどうか。

<u>→JSR では今後ダブルブラインドとして査読をする事が承認され、投稿規定の審議等はメールで行う事となった。</u>

次回編集委員会の開催について
今回の編集委員会で発生した問題がある程度進捗したら開催を予定する事とした。